

1. 佐原三菱館の歴史と現在

この建物は、大正3年(1914)に川崎銀行佐原支店の店舗として、清水漢之助商店(現清水建設)の設計施工で建てられた建物です。煉瓦造2階建てで、内部は1階の吹き抜けになっています。建物正面の屋根の隅にはドームを設け、煉瓦タイルと花崗岩を用いたルネサンス様式を採用しています。地方都市に普及した洋式建築の例として優れ、貴重であることから、平成3年(1991)に県の有形文化財の指定を受けました。

銀行の変遷			
明治7年	1874	川崎組設立	
明治13年	1880	川崎銀行「佐原出張所」	
明治31年	1898	川崎銀行「佐原支店」	
昭和2年	1927	川崎第百銀行「佐原支店」	
昭和11年	1936	第百銀行「佐原支店」	
昭和18年	1943	三菱銀行「佐原支店」	
昭和23年	1948	千代田銀行「佐原支店」	
昭和28年	1953	三菱銀行「佐原支店」	

川崎銀行は昭和2年(1927)に第百銀行と合併して川崎第百銀行に、昭和11年(1936)年には川崎貯蓄銀行と東京貯蓄銀行を吸収合併して第百銀行となり、昭和18年(1943)に三菱銀行と合併して三菱銀行となりました。戦後の一時期、千代田銀行に名前が改められましたが、昭和28年(1953)には三菱銀行に名前が戻ります。その後、昭和の終わりまで三菱銀行佐原支店として、地域

の金融を支えるとともに、地元の人々の生活に溶け込んでいました。平成元年(1989)、新店舗の完成に伴い、佐原市(当時)に寄贈されました。

戦後の長い期間を三菱銀行佐原支店として使われてきたため、文化財の指定名称は「三菱銀行佐原支店旧本館」とされました。いつしか、その愛称として「佐原三菱館」と呼ばれるようになり、町並み保存と観光の拠点として親しまれています。



大正3年(1914) 新設時の佐原三菱館

2. 川崎銀行とは

川崎銀行は、明治13年(1880)に設立された川崎財閥の中核をなした銀行です。川崎家は、代々水戸の同濟問屋を営んでおり、銀行創業者の川崎八右衛門は、明治7年(1874)に東京日本橋に川崎銀行の前身である川崎組を興し、金融財閥としての基礎を築きました。佐原三菱館が建設された当時の頭取は、2代目八右衛門です。2代目は建築に造詣が深く、特に銀行建築には信用力獲得の意味からも巨費を投じ、建物の安全性にはこだわりを見せていました。関東大震災・東日本大震災と二度の震災に耐えた本建物が、その思いを証明しています。

【川崎銀行史 歴史と建築】(川崎定徳株式会社 2014)より



昭和12年(1927)の罹災後の様子 右奥に佐原三菱館が見える

3. 佐原三菱館の見どころ

その1 赤煉瓦のたたずまい

小野川に架かる忠敬橋から東側を見ると、瓦葺の店舗が立ち並ぶ中心に赤煉瓦の建物が目に入ります。和風の建物に囲まれた中でも調和を保ち、町並みに溶け込んでいます。



昭和初期の本宿通り(正奥に佐原三菱館が見える)

佐原三菱館は、国産の煉瓦をイギリス積みと呼ばれる、煉瓦の長い面(長手)の段と、短い面(小口)の段を交互に積み重ねる方法で積み重ねられています。ただ、表面には煉瓦タイルと呼ばれる化粧タイルを貼り付けているため、目にすることはできません。



煉瓦の長手と小口を交互に積み重ねています。

その2

大理石と装飾漆喰の暖炉(復原)

山口県美祿市産の大理石と装飾が施された漆喰の造形が美しさを際立たせています。大理石は、白色の中に灰色の模様が入る「新薄」と呼ばれるものです。大理石上部のアンセミアン文様の装飾漆喰は、熟練職人の手作業で仕上げられています。暖炉金物は、根商店が製造販売したものをカタログを参考に再制作しました。



その3

曲線美が織り成す螺旋階段(復原)

窓の閉め開けのため、2階の回廊に上がる階段です。省スペースで機能的な階段です。円柱を中心に鉄と木が織り成す造形美が目を引きまします。



その4

銀行建築を象徴するカウンター(復原)

防犯用の金網は手作業で製作されており、打ったリベットの数に7,000におよびます。天板は、静岡県産のケヤキ材で、一本の木から取り出した一枚板です。



その5

今も現役! 大正3年の窓シャッター

大正3年(1914)の窓シャッターが現存しています。「大野式防火巻上戸」と呼ばれるこのシャッター、発明者の大野正により特許(第7935号)が取得されています。特許となっている速度調整装置(一定の速度を保つ装置)と自重降下装置(シャッター自身の重さを利用して閉まる装置)を持ったシャッター、なんと100年以上経った今も稼働します。



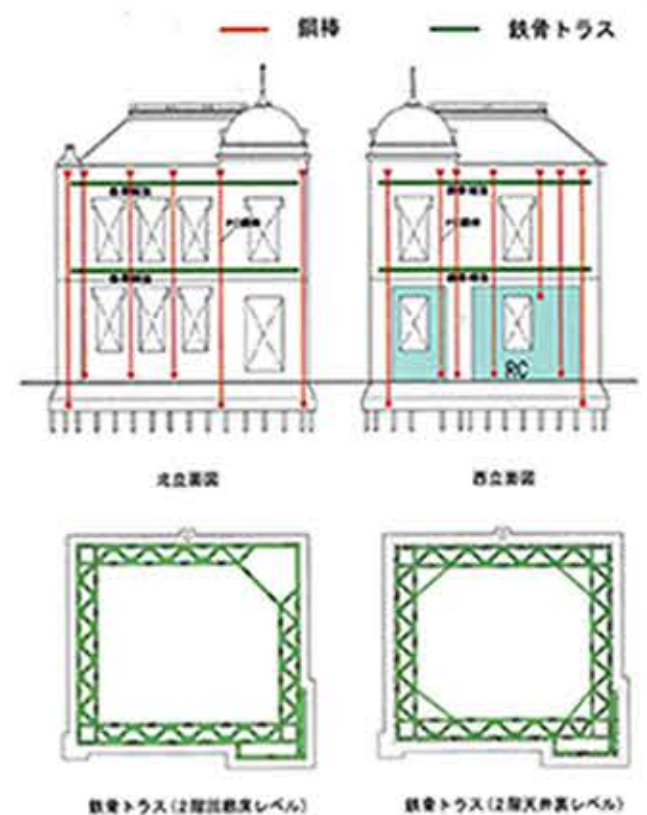
窓シャッター(大野式防火巻上戸)

4. 保存修理工事を終えて

香取市では、令和元年度から令和3年度にかけて、佐原三菱館の耐震補強工事と復原・修復工事を行いました。耐震工事の内容と工事の中でわかったことをご紹介します。

①耐震補強工事の方法

建物の内外観の姿を残すため、耐震補強は煉瓦の壁の中に鋼棒を入れ、鉄骨トラスを屋根裏と回廊に廻すことで、補強材をほぼ見えない状態にしました。



②国産煉瓦を使用

屋根の一部を解体したところ、積み上げられた一番上の煉瓦に刻印が見つかりました。調査をすすめていくと三種類の刻印が確認できました。一つめは、ひし形にした井桁の中に片仮名の「サ」の字があるもの。二つめは「入」の下に「本」の字があるもの。三つめは「入」の下に「要」の字があるもの。これまで、佐原三菱館の煉瓦はイギリスから輸入されたものとされてきましたが、これらの刻印から、日本国内で焼かれた煉瓦であることがわかりました。

煉瓦壁の頂部の煉瓦(真上から撮影)

写真下が真逆側、化粧タイルが貼られている。



「サ」の刻印

「入」に「本」の刻印

「入」に「要」の刻印

③ドームは火災に

屋根の隅にあるドーム、覆われていた銅板を取り外すと焼け焦げた骨組が現れてきました。このことから、過去に火災にあったことがわかりました。その時の補修では、火災にあった部材を極力保存して修理されていたため、建築された当時の作り方を知ることができました。今回の保存修理では、当初の部材・工法を保存することを第一に考え、骨組はそのまま残して新材で補強を行い、火災の記録と併せて残していくことにしました。



取れたドームの骨組み



【補修前】

【補修後】

佐原三菱館

〒287-0003 千葉県香取市佐原イ1903-1
(佐原町並み交流館内) Tel:0478-52-1000
mail:s_kouryukan@yahoo.co.jp
●文化財の問い合わせ
香取市教育委員会生涯学習課文化財班
Tel:0478-50-1224
mail:bunkazai@city.katori.lg.jp



建物ガイド

